

7月30日の津波警報で見たこと

- ・多くの人が迅速に避難することができた
- ・猛暑での避難で熱中症が心配された
- ・車で避難した人が多い避難所があった
- ・避難所によっては食料などを備蓄する必要がある
- ・非常持出袋を持ってきた人が少数だった

災害の備え



次の災害までに自助・共助の力で地域防災力を高めよう

- ・どうしてもいかならずに自宅にいた高齢者に地域の人々が声をかけ、一緒に避難した事例がありました。これからも地域での声かけや、支え合いによる共助で地域防災力を高めましょう。
- ・市では、空調設備のない避難所にはスポットクーラーを設置するなどの対策を考えていますが、自助として飲料水や冷却グッズの用意もお願いします。
- ・津波や地震での避難は、車を利用すると渋滞や事故を起こす可能性があるため、原則は徒歩です。車がないと避難できない高齢者や要配慮者のため、地域で共通認識を持つことが大切です。
- ・市では、道路の寸断による備蓄食料などの配送遅れも想定されるため、避難所での備蓄を進めていますが、自助として食料などを入れた非常持出袋を持って避難することを日ごろから意識しておきましょう。



自助・共助の第一歩!まずは防災訓練に参加してみましょう

訓練は繰り返すことで身に付く

今、この記事を読んでいるときに災害が発生したら、あなたは迷いなく動けるでしょうか。人は経験していないことは、なかなかできません。何度も繰り返して訓練を実施することで身につく、いざというときに行動できるようになります。

訓練は成功しなくても良い

よく、自主防災会から「訓練がうまくできるように指導して欲しい」という声をいただきます。しかし、災害の規模や事象、地域の特性などによって状況が異なるため、これをやっておけば良いというものはありません。訓練はうまくいなくてもいいんです。やることで課題が見つかり、対策してまたやってみるを繰り返すことで、地域防災力が向上します。



愛知県・田原市総合防災訓練

令和7年8月31日に白谷海浜公園、童浦小学校などで愛知県・田原市総合防災訓練を実施し、自助・共助・公助の連携を確認しました。



◀ 訓練の様子



▲ 初期消火訓練の様子



▲ 負傷者搬送訓練の様子



▲ 避難所運営訓練の様子